

北房地域振興計画

～観光地域づくりに向けて～

地域が誇る独自の価値(ブランドコンセプト)

キャッチフレーズ

「とにかくおいでよ、ずっといたいまち北房」

主要テーマ

- ①全国に発信する「日本一のホタルの里づくり」
- ②ロマンと郷愁の里「西の明日香村づくり」
- ③子どもも大人も学び続ける「学びの里づくり」
- ④誰もが住み続けたい「人を受け入れる里づくり」

独自の価値を活かすための目標・あるべき姿

- ①ホタルや古墳は有名だが、その資源を十分に生かしきれていない。もったいない。
→活用するための研究・保存活動を進める
- ②地域が観光資源・歴史文化遺産の価値を認識できていない。
→学び、関わりの場をつくる
- ③北房へ住みたい人はいるが、家や仕事、情報が少ない。
→人がつながり広がる環境・関係づくり

具体的な取り組み

日本一のホタルの里づくり

- ・ヘイケボタルの再生
- ・ホタルの生態・自然環境の研究

西の明日香村づくり

- ・荒木山古墳の発掘調査
- ・歴史文化遺産活用のための仕組みづくり

学びの里づくり

- ・子どもたちへのふるさと教育
- ・北房ならではの体験学習(歴史・ホタル)

人を受け入れる里づくり

- ・移住定住情報の発信
- ・空き家・空き農地の活用

個々の取組を連動させる

地域・人を動かすまちづくり

- ・域外との交流と拠点施設整備
- ・真庭なりわい塾の実施
- ・北房を発信する人材の育成

住民が推進力となる

計画を動かす推進体制

- ・オール北房の体制づくり

落合地域振興計画

～観光地域づくりに向けて～

地域が誇る独自の価値（ブランドコンセプト）

■ 住民が主役の観光地域づくり

「住んでよし、訪れてよし」の滞在交流型地域振興

- ① **山間部の交流・体験・学びによる関係人口の構築**
地域内の生活や営みを体験し交流することで、地域の魅力を伝え、交流・関係人口の増加に繋げる。
- ② **中心部のまちづくり**
さまざまな人が集まり中心部のまちづくりを考える



独自の価値を活かすための目標・あるべき姿

- **点と点をつなぎ、面として地域振興を考える**
小さな循環型経済の拠点が增多することで、滞在時間・期間を延長させる。
- **観光客が周遊できる仕組みを構築する**
地域の連携を強固にし、落合・久世・勝山地域が連携し、観光客が周遊できる仕組みを構築する。

具体的な取り組み

- **山間部の交流・体験・学びによる関係人口の構築**
 - ・ 「吉縁起村」による地域活性化
 - ・ 「醍醐桜」と「空き家リノベーション」、「旧別所小学校」の利活用
 - ・ 「花の山寺普門寺」と「UEDA VILLAGE」による交流体験できるメニューづくり
- **中心部の地域活性化活動の支援**
 - ・ 明かりが灯り、人が歩く町並みが続くことを目標に実施したアンケートをもとに真庭高等学校や地域活動に興味のある人と協働し、新たな地域の担い手を育成
- **旭川・りんくるラインを活用した取組**
 - ・ 地域をつなぐ「旭川・りんくるライン」をつながるコンテンツとして落合、久世、勝山が連携

久世地域振興計画

地域が誇る独自の価値（ブランドコンセプト）

～あなたに会いたいまちづくり～

●交通のクロス地点、比較的コンパクトな管内、誰でも受け入れられる市民性、都市機能が充実（商店・文化スポーツ施設・官公庁）

主要テーマ

- ①地域の資源に気づく
- ②地域の暮らしを見直す
- ③暮らす人が「まち」の価値を上げる

独自の価値を活かすための目標・あるべき姿

- ①川の流れと道でつながる旅づくり（資源に気づく）
清流旭川、古道にまつわる自然景観・史跡・交通などの資源に気づき、観光資源に活用する。
- ②暮らしに息づくものづくりや体験（暮らしを見直す）
伝統的な商工業・農業・祭りなどの資源を見直し、人の暮らしを感じることができる体験プログラムをつくる。
- ③人を育む「まち」づくり（まちの価値を上げる）
「人」を潜在的に育てていく気概・誇りを持つ人を創り、観光地域づくりの人材（人に会いに来るまちづくり）につなげる。

具体的な取り組み

- ①川の流れと道でつながる旅づくり（資源に気づく）
 - ・久世トンネル桜ほか地域内の桜を巡る体験
 - ・旭川に関する歴史や産業・交流の学びや体験
 - ・りんくるラインの活用
- ②暮らしに息づくものづくりや体験（暮らしを見直す）
 - ・農山村の暮らし体験
 - ・ミツマタと和紙づくり
 - ・ジビエの活用
 - ・版画体験
 - ・早川公にちなむ伝承
 - ・地域の祭りのみどころ発信
- ③人を育む「まち」づくり（まちの価値を上げる）
 - ・商店街、公園を活用した市民参加型のイベント開催
 - ・まちなか魅力アップ（駅前空間）
 - ・遊休施設で居場所づくり
 - ・旧遷喬尋常小学校活用
 - ・地域の大人と地域学習
 - ・キャリア教育

勝山地域振興計画

～観光地域づくりに向けて～

地域が誇る独自の価値（ブランドコンセプト）

- 文化・歴史資本
 - ・伝統的な建物が並びのれんがゆれる、風情あるまち
 - ・「勝山文化往来館ひしお」「真庭市立中央図書館」など文化の香るまち
- 自然資本
 - ・名瀑「神庭の滝」
 - ・まちの中心を流れる清流「旭川」
 - ・自然の恵みを活かした特産品

独自の価値を活かすための目標・あるべき姿

- 勝山地域の観光客の特徴
 - ・リピーターが多い[来訪回数10回以上:32%]
 - ・ひとり旅が多い[旅行の同伴者:1人21%]
(反面、家族連れが少ない)
 - ・滞在時間が短い
- ➡多彩な地域資源と勝山の観光客の特徴を組み合わせた施策が必要
- 勝山の町並み以外の地域については、それぞれの地域の特性を活かした観光地域づくり

具体的な取り組み

- ①もう一度いきたいまち→地域価値の向上
 - ・歴史ある町並みを、重要伝統的建造物群保存地区への指定も視野にした持続可能な景観保存策を検討
 - ・勝山郷土資料館について多様な機能を集積した施設となるよう検討。また、敷地内に旭川の見える木の公園整備を検討
 - ・Wi-Fi環境の整備による情報発信
- ②ひとり旅もおもしろい
 - ・勝山町並み保存地区～旦～高田城本丸跡～三浦邸に至る散策ルートの活用促進
 - ・旭川・りんくるラインの活用を強化
- ③家族連れ客の増加に向けて
 - ・神庭の滝の自然を活かした体験学習プログラム等の導入により、新たな魅力を創出
 - ・蒜山～湯原～勝山間の連携を強化
- ④勝山の町並み以外の地域の活性化
 - ・神代、城北、月田、富原地域における、地域も楽しみながら活動ができる観光地域づくり

美甘地域振興計画

～観光地域づくりに向けて～

地域が誇る独自の価値（ブランドコンセプト）

グローバルクリエイイト美甘
～プレイヤーの想いを「こと」に～
地域内外の人が繋がり創造する

- ・ クリエイト菅谷の魅力
- ・ 美甘街並み、宿場桜の魅力
- ・ 魅力ある美甘の地域資源を再評価
- ・ 地域資源を活かせる人材の育成

独自の価値を活かすための目標・あるべき姿

- クリエイト菅谷のアウトドア体験が魅力だが、アウトドア愛好者にも知名度が低いため計画的な再編整備と魅力発信、里山ならではのアクティビティの充実。
- 美甘宿の風情ある街並を活かしておらず、空き家も目立つ状態。街並み活用と空き家対策が必要。
- 地域資源の魅力が豊富だが、地域人材も不足しているため、地域プレイヤーの育成と、地域内外人材が連携し活動しやすい環境づくり、環境整備。
モチ加工に続く、地域資源による産業創出

具体的な取り組み

① クリエイト菅谷の再生整備、振興

地域内外の人材を活用するグローバルクリエイイト（グローバル人材とローカル人材の融合）でキャンプ場、バンガロー等宿泊施設の整備を検討。経営戦略を策定し利用者ニーズのターゲットを明確にし再編。また地域の資源を活かした里山のアクティビティを展開。

② 美甘街並み、美甘宿整備

美甘の旧宿場街全体を一つの宿泊施設として整備を検討。空き家を一般宿泊施設としてリノベーションし、香杏館に食事提供及びフロント機能を持たせ、街全体を分散型宿泊の新たな日本のリゾートスタイルとして構築。

③ 地域の人材、プレイヤー育成

美甘地域の現状分析、課題分析を行い、地域の行動目標を設定し、美甘地域が一丸となって活動できる組織づくりと、担い手が活動しやすい環境整備の推進。

④ 地域の人、資源の連携

蒜山（真庭市北部）地域を中心に小ロット農産物を加工、開発、プロモーション、販売までを請け負うローカルフードラボ（美甘よろづ屋）を開設。人材育成の成果とともに産業創出。

湯原地域振興計画

～観光地域づくりに向けて～

地域が誇る独自の価値(ブランドコンセプト)

ブラッシュアップと連携による新しい価値の創出

温泉 ⇄ 歴史 ⇄ 地域

観光 ⇄ 地域 ⇄ 学び ⇄ 行政



個性、テーマ性、多様性、愛着、ローカルアイデンティティ



独自の価値を活かすための目標・あるべき姿

個々の資源の再発掘と、組織の連携により
新しい魅力を創出して

地域の個性を生かした
多様性のある地域づくりにより
地域への愛着を生み
地域観光の振興を図る。

具体的な取り組み

○湯原温泉「"まち"プロジェクト」

古い温泉地としての歴史を残しつつ、新しい「まち」としての魅力を高める。(地域で空き家の利活用、連携した情報発信、蒜山とのつながりづくり)

→観光拠点としての宿泊地(終点)を目指す

○ひまわり館・RVパーク・まんが館(旧二川小)

自然や動物と親しむ場、アウトドアやキャンプなど、施設宿泊とは違うターゲット層につながる魅力を高める。

→新たな観光ニーズに対応したターゲットを取り込む

○社の式内八社「歴史交流」

歴史資源をより全国に発信するシンポジウムの開催や、モビリティを活用した歴史ガイドで地域の魅力を発信する。

→歴史的価値の理解者・応援者を増やす

○二川の地域づくり「地域自治振興モデル」

地域自らが課題解決のため、経済活動、住民のよりどころとなる拠点づくりを進める。

→二川地域自治振興センターを設置する

○天然記念物「はんだき」「自然・地域環境保全」

→環境を身近に感じることができる観光資源づくり



地域外、地域内の関連組織が連携し、「強みを活かし弱みを補い合う」仕組みを構築し、湯原らしい観光スタイルを生み出す。

蒜山地域振興計画

～観光地域づくりに向けて～

地域が誇る独自の価値（ブランドコンセプト）

SDGs ツーリズム・蒜山

～蒜山の自然と暮らしを活かした観光～

蒜山の観光・体験・教育を通じてSDGsへの関心を高め、地域の魅力の本質である豊かな自然や文化、歴史への関心・共感を深め、環境と観光が調和した観光地域づくりを推進する。

- ①「滞在型観光」を推進する拠点整備
- ②自然・文化資源を活かした体験観光メニュー開発
- ③蒜山ならではの価値を向上させる蒜山ブランド構築

独自の価値を活かすための目標・あるべき姿

- 散在している観光資源の情報発信拠点として、CLT建築物による観光拠点施設の整備を行う。
- 通過型の観光から滞在型の観光を目指すため、食や自然体験・農業体験といった様々な体験観光メニューの充実を目指す。
- 観光資源が散在しているため、回遊ルートの形成とアクセスの改善、地域間連携を推進する。

具体的な取り組み

① ビジターセンターの整備

訪れた観光客が、蒜山の多様な観光メニューを知ることができ、蒜山全域に来訪客を誘導するゲートウェイを整備する。滞在型観光の拠点として体験メニューを一括して紹介するツアーデスクを設ける。

② 体験観光メニューの体制整備と自然体験活動をテーマにした蒜山ブランドの構築

蒜山では自然資源を活かした体験観光が多数行われている。自然保全と観光の両立を図り持続可能な観光地域づくりを目指すための自然再生協議会の設立を行い、自然資源を活用した滞在交流プログラムの企画・商品化を実施する。

③ サイクリングロード沿いの拠点整備

サイクリングの中核的な拠点としてサイクリングセンターを整備する。

④ 蒜山ならではの自然・文化資源の活用

草原や里山、農業から得られる資源、伝統工芸等を活用した商品開発を外部の力も取り入れコーディネートし、地域の商品群の拡充を図る。

⑤ 地域の事業者の育成

SDGsや自然共生といった次世代の感性に合うプロモーションや滞在交流プログラム、土産販売促進などを外部事業者の経験も取り入れながら実施する。また蒜山の観光事業者への経営指導等により、地域の観光の質の向上を目指す。